

2026年度

本谷奥橋

福山市 沼隈町 地内

橋梁修繕工事 実施設計書

工 事 概 要	当初設計	
	工事延長 L=7.1m 橋長 L=7.1m 幅員 W=3.0m ひび割れ補修工 L=1.2m 断面修復工 V=0.1m <sup>3</sup> 塗装塗替工 A=27m <sup>2</sup> 水切り工 L=14.1m	

## 特記仕様書

### 第1章 総則

#### 第1節 適用

- ・本特記仕様書は、橋梁修繕工事（本谷奥橋）に適用する。
- ・本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
- ・令和7年8月 広島県 土木工事共通仕様書、「設計図書（別冊図面、仕様書）」、「福山市建設工事執行規則」、「福山市工事検査技術基準」
- ・その他関連規格類
- ・小黑板情報電子化を実施しない工事写真について、監督員の承諾を得る必要はないものとする。

#### 第2節 工程表の提出について

- ・契約締結後14日以内に設計図書に基づいて、工程表を作成し、発注者に提出すること。工期の変更契約についても同様とする。

#### 第3節 地元への周知

- ・受注者は、監督員と協議し、地先住民、町内会長、土木常設員に工事着手及び工事完了の報告を行うこと。また、工事着手に先立ち地先住民及び貸借人には具体的な施工内容、方法、時期等の説明を行い、承諾を得ること。
- ・受注者は、工事着手の際に、あらかじめ沿線地権者に施工内容等についての説明を行い、承諾を得ること。

#### 第4節 工事に着手すべき期日について

- ・受注者は、工事開始日以降30日以内に工事着手しなければならない。

#### 第5節 法定外労災保険の付保について

- ・本工事は、法定外の労災保険契約の保険料を見込んでいる。

### 第2章 施工条件

#### 第1節 検査期間

- ・本工事は、工事検査期間として、14日間を見込んでいる。

#### 第2節 鋼部材の既設塗料に含まれる物質

- ・本橋の鋼部材に使用されている塗料には下表に示す物質が含有していることが事前調査で判明している。
- |       |              |
|-------|--------------|
| 物質名   | ：含有量         |
| 鉛     | ：43,000mg/kg |
| 六価クロム | ：1,400mg/kg  |
| P C B | ：0.52mg/kg   |

#### 第3節 熱中症対策

- ・本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う工事である。
- 1 工期（工事の始期日から工事の終期日までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日及び後片付け期間の合計をいう。なお、検査期間13日間、年末年始6日間（12月29日～1月3日）、夏季休暇3日間（国民の祝日である山の日の次の日から土曜日、日曜日及び振替休日を除く3日間とする。）、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。）期間中の真夏日の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。
  - 2 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。また、日最高暑さ指数（WBGT）が25度以上の日をいう。ただし、夜間工事の場合は、作業時間帯の最高気温又は最高暑さ指数（WBGT）を対象とする。
  - 3 気温の計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温又は環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。なお、本工事において、上記地上観測所及び観測地点は、「福山」とすることを標準とする。
  - 4 受注者は、工事期間中における気温の計測箇所、用いる計測値及び計測期間（計測開始日、計測終了予定日）を明記した施工計画書を工事着手前に提出し、計測結果を工事完成時までに監督員に提出すること。
  - 5 受注者は、計測終了日について、工事完成時までに監督員と協議するものとする。
  - 6 積算方法は次のとおりとする。
    - (1) 補正方法  
ア 受注者より提出された計測結果の資料を基に、補正值を算出し現場管理費率に加算する。ただし、現場管理費率の補正は、「積算寒冷地域で施工時期が冬期となる場合の補正」、「緊急工事の場合」及び本通知の補正值を合計し、2%を上限とする。  
イ 真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期  
ウ 補正值（%）＝真夏日率×1.2
    - (2) 補正值の計算結果は、パーセント表示で少数点3位を四捨五入して2位止めとする。
  - 7 受注者より、熱中症対策に資する現場管理費の補正が不要である旨の協議があった場合は、補正を行う工事から対象外とすることが出来る。
  - 8 検査員から修補の指示があった場合、修補期間は対象外とする。

#### 第4節 任意仮設

- ・本工事に伴う以下の内容の仮設工は、積算用参考図に見込んでいる。なお、積算用参考図は任意仮設の積算内容を示したものであり、工事目的物を完成させるための一切の手段については、受注者の責任において定めるものとする。
- ・内容：飛散防止材、安全衛生保護具、工事用道路

#### 第5節 特定建設資材廃棄物（アスファルト塊、コンクリート塊等）

- ・建設リサイクル法対象工事（請負代金額500万円以上）の場合、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」を遵守し適正に処理すること。また、法第12条第2項に基づき、法第10条第1号から第5号までに掲げる事項について下請負人に告知する場合は、告知書の写しを監督員に提出すること。
- ・特定建設資材廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）を遵守し、適正に処理しなければならない。
- ・特定建設資材廃棄物は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設へ搬出し再資源化しなければならない。
- ・再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基き許可した適正な施設のうち受入条件が合うものの中から、運搬費と受入費の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、施設への受入が困難な場合は監督員と受注者が協議するものとする。
- ・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。
- ・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）

#### 第6節 特別管理産業廃棄物（既設塗料の剥離やかき落とし作業で発生する廃棄物）PCB含有量基準値超え

- ・本橋の鋼部材に使用されている塗料にはPCBが含有しているため、塗替塗装の剥離やかき落とし作業で発生する既設塗料の廃棄物（以下、塗料廃棄物）は特別管理産業廃棄物となる。
- ・特別管理産業廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）を遵守し、適正に処理しなければならない。さらに、PCBを含有する廃棄物は、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」（以下、PCB特措法）を厳守し、適正に処理しなければならない。
- ・塗料廃棄物は鋼製のドラム缶またはペール管に密閉して保管し、速やかに処分するものとする。また、使用した作業服等の保護具も同様に保管して処分するものとする。
- ・なお、本工事における作業服等の防護具の購入・処分の積上げ数量は、対象となる施工量に対し作業日当たり標準作業量から必要な数量を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き、施工実績等による防護具の購入・処分の積上げ数量の増加に対する変更は行わない。
- ・上記のほか、塗料廃棄物の保管・収集・運搬については、「低濃度PCB廃棄物収集・運搬ガイドライン（平成25年6月）」に基づいて行うものとする。

### 第3章 その他

#### 第1節 その他項目

- ・本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

# 総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日  諸経費体系	0 74 福山市(沼隈) 00-08.06.01(0)  1 公共(一般)	凡例 Co ……コンクリート      As ……アスファルト DT ……ダンプトラック      BH ……バックホウ CC ……クローラークレーン      TC ……トラッククレーン RTC…ラフテレーンクレーン
	当世代 41 橋梁保全工事 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0% 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)	前世代
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。		

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
橋梁付属物工	1	式			Y1G0321 レベル2
排水施設工	1	式			Y1G032103 レベル3
排水管 【管規格】	1	式			Y1G03210302 レベル4
水切設置工 L=14.1m		m			Y1G03210302 レベル4
橋梁補修工	1	橋			V0001 00 単第0 -0001 表
ひび割れ補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
ひび割れ補修工	1	式			Y1G032404 レベル3
低圧注入工法 【材料種類】	1	式			Y1G03240402 レベル4
		構造物			

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
ひび割れ補修工(低圧注入工法) 補修延べ延長25m未満の場合	1	構造物			S1020035 00 単第0 -0002 表
断面修復工	1	式			Y1G032405 レベル3
左官工法 【材料種類】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無】		構造物			Y1G03240501 レベル4
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.11m3	1	構造物			S1020041 00 単第0 -0003 表
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含まない) 修復延べ体積0.1m3未満の場合	1	構造物			S1020043 00 単第0 -0004 表
運搬処理工					Y4900 レベル4
コンクリート殻積込・運搬(断面修復工) [無]DID区間 運搬距離_19km以下(16.5km超)	0.1	m3			S1020051 00 単第0 -0005 表
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
建設発生副産物受入費 Co殻	0.3	t			F0004 00

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
現場塗装工					Y1G0325 レベル2
	1	式			
橋梁塗装工					Y1G032501 レベル3
	1	式			
素地調整 【素地調整種類】					Y1G03250101 レベル4
		m2			
塗替塗装 清掃・水洗い					SDT00029 00
	27	m2			単第0 -0007 表
塗膜除去工 塗膜除去 廃材の回収含む 湿式塗膜剥離工					V0002 00
	27	m2			単第0 -0008 表
塗膜除去工 素地調整工(1種ケレン) プラスト面形成動力工具					V0003 00
	27	m2			(プラストライカー同等品)使用 単第0 -0009 表
ペール缶 天蓋取り外し式バンドタイプ フタ・バンド付き					F0000000016 00
	1	個			20L
下地処理					Y1G01130301 レベル4
		m2			
塗替塗装 下塗り塗装					SDT00029 00
	27	m2			単第0 -0010 表

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
下塗 【塗装種別, 塗装箇所, 塗装回数】		m2			Y1G03250102レベル4
塗替塗装 下塗り塗装	27	m2			SDT00029 00 単第0 -0011 表
中塗 【塗装種別, 塗装箇所, 塗装回数】		m2			Y1G03250103レベル4
塗替塗装 中塗り塗装	27	m2			SDT00029 00 単第0 -0012 表
上塗 【塗装種別, 塗装箇所, 塗装回数】		m2			Y1G03250104レベル4
塗替塗装 上塗り塗装	27	m2			SDT00029 00 単第0 -0013 表
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
機器等小運搬工	1	式			Y3900 レベル3
機器運搬	1	式			Y4900 レベル4

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
機器運搬（任意）					V9200 00
	1	式			単第0 -0014 表
工事用道路工					Y1G032801 レベル3
	1	式			
工事用道路盛土 【施工幅員】					Y1G03280101 レベル4
		m3			
工事用道路（任意）					V9100 00
	1	式			単第0 -0015 表
防塵対策工					Y1G032814 レベル3
	1	式			
ばく露防止対策					Y4900 レベル4
安全衛生保護具（任意）					V9900 00
	1	式			単第0 -0017 表
防護施設工					Y1G032816 レベル3
	1	式			
仮囲い 【作業区分,基礎形式,高さ】					Y1G03281602 レベル4
		m			

# 本工事費 内訳表

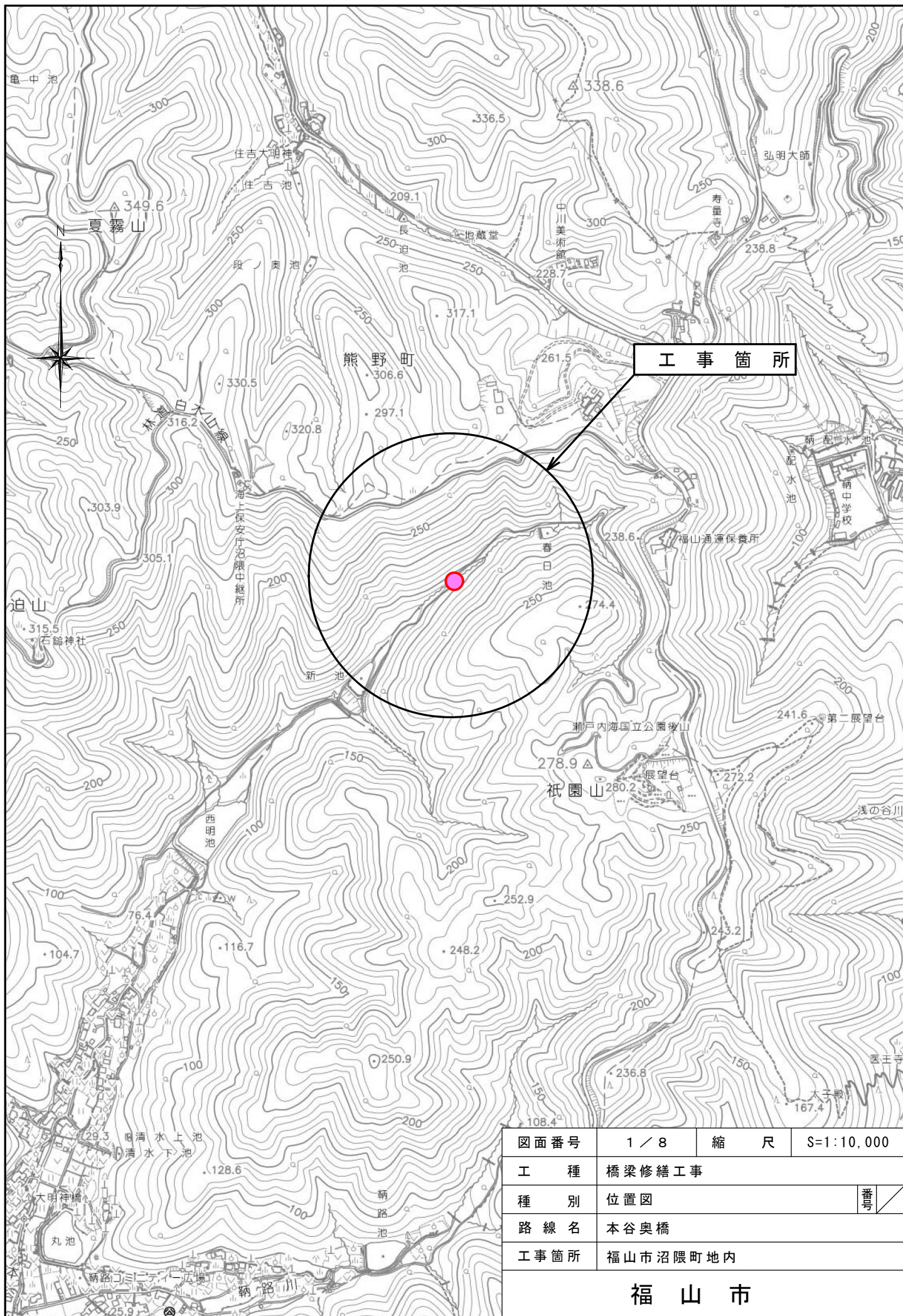
費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
シート防護(任意)					V9000 00
	1	式			単第0 -0018 表
** 直接工事費 ** #0020計=支給品等(材料),無償貸付					
準備費					Z0005
準備費					YZZ05 レベル2
	1	式			
準備費					YZZ05001 レベル3
	1	式			
木根等処分費					YZZ05001001 レベル4
		式			
【準備費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0047
除草草処分費					F0002 00
	1,800	kg			
安全費					Z0009

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
安全費					YZZ09 レベル2
	1	式			
安全費					YZZ09001 レベル3
	1	式			
呼吸用保護具等費用					YZZ09001002 レベル4
		式			
呼吸用保護具					V9901 00
	1	式			単第0 -0020 表
共通仮設費率分					Z0019
計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 共通仮設費計 **					
** 純工事費 **					
現場管理費 計算情報..... 対象額..... 率.....					

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
** 工事原価 **					
一般管理费率分 計算情報..... 対象額..... 率.....					前払補正率...
契約保証費 計算情報..... 対象額..... 率.....					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					
** 工事価格 **					
** 消費税相当額 ** 計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 工事費計 **					
** 契約保証費計 **					



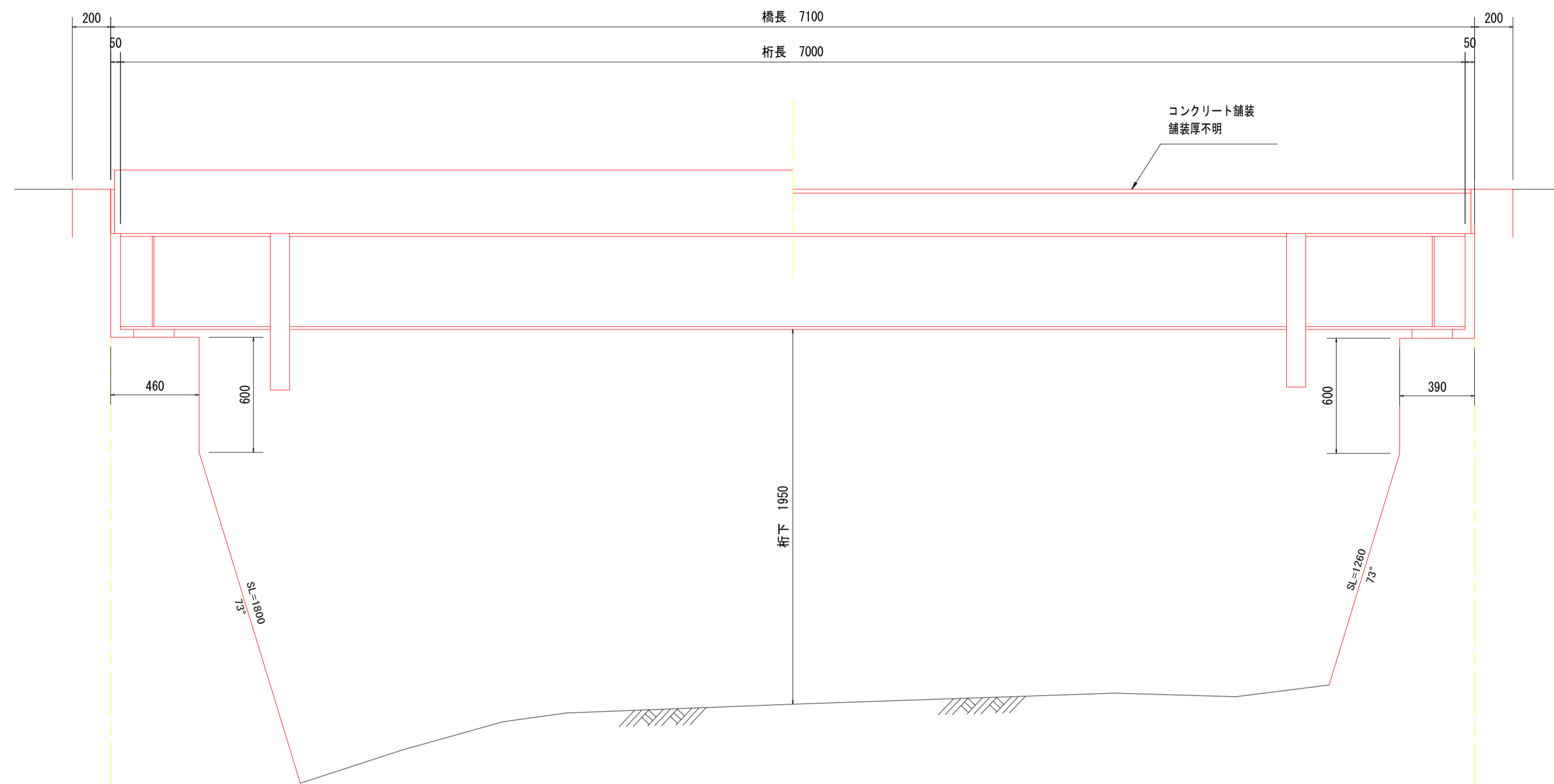
図面番号	1 / 8	縮 尺	S=1:10,000
工 種	橋梁修繕工事		
種 別	位置図		番号
路線名	本谷奥橋		
工事箇所	福山市沼隈町地内		

福 山 市

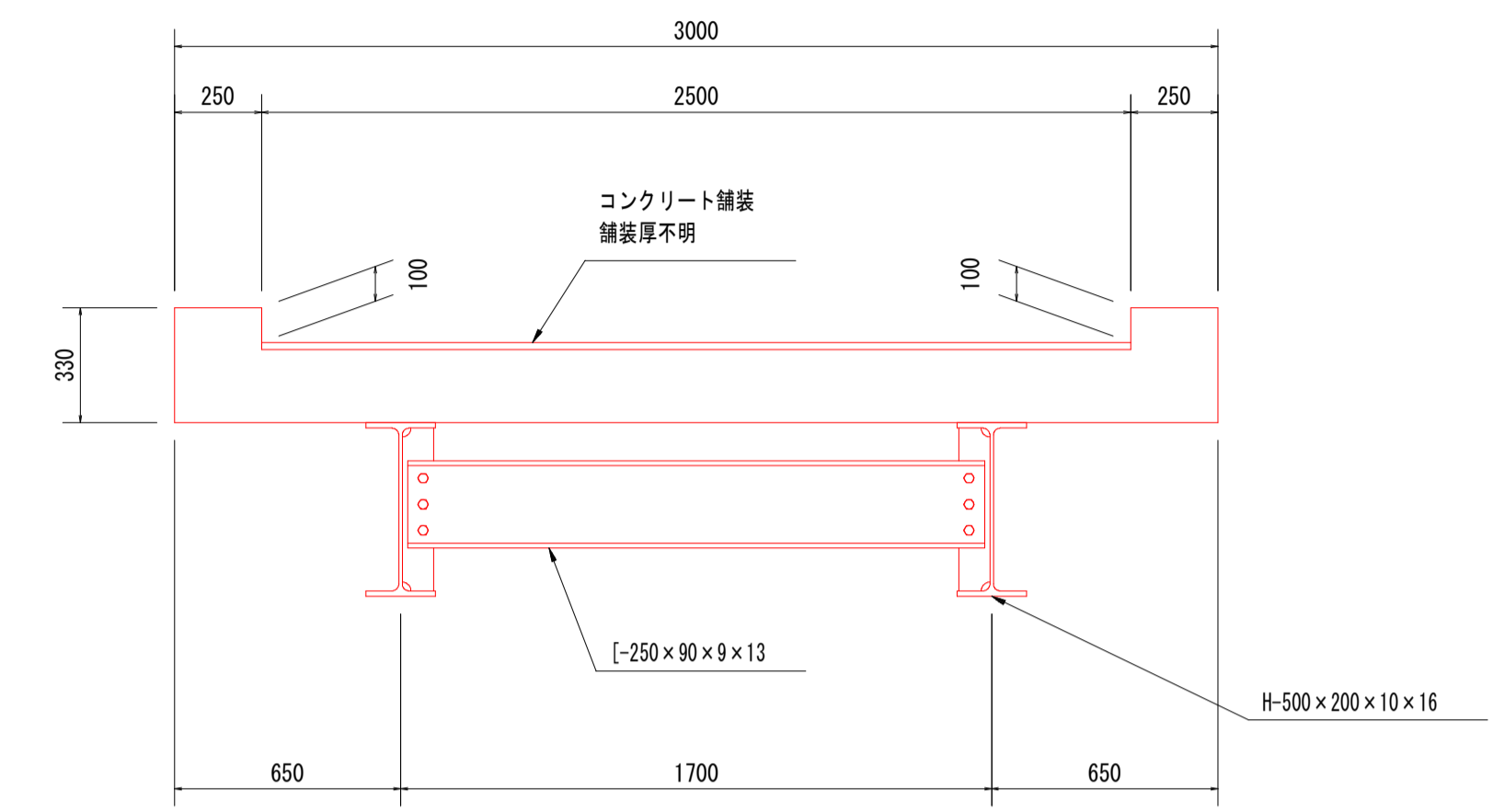
# 本谷奥橋 一般図

S=1:20

## 側面図



## 断面図



## 平面図

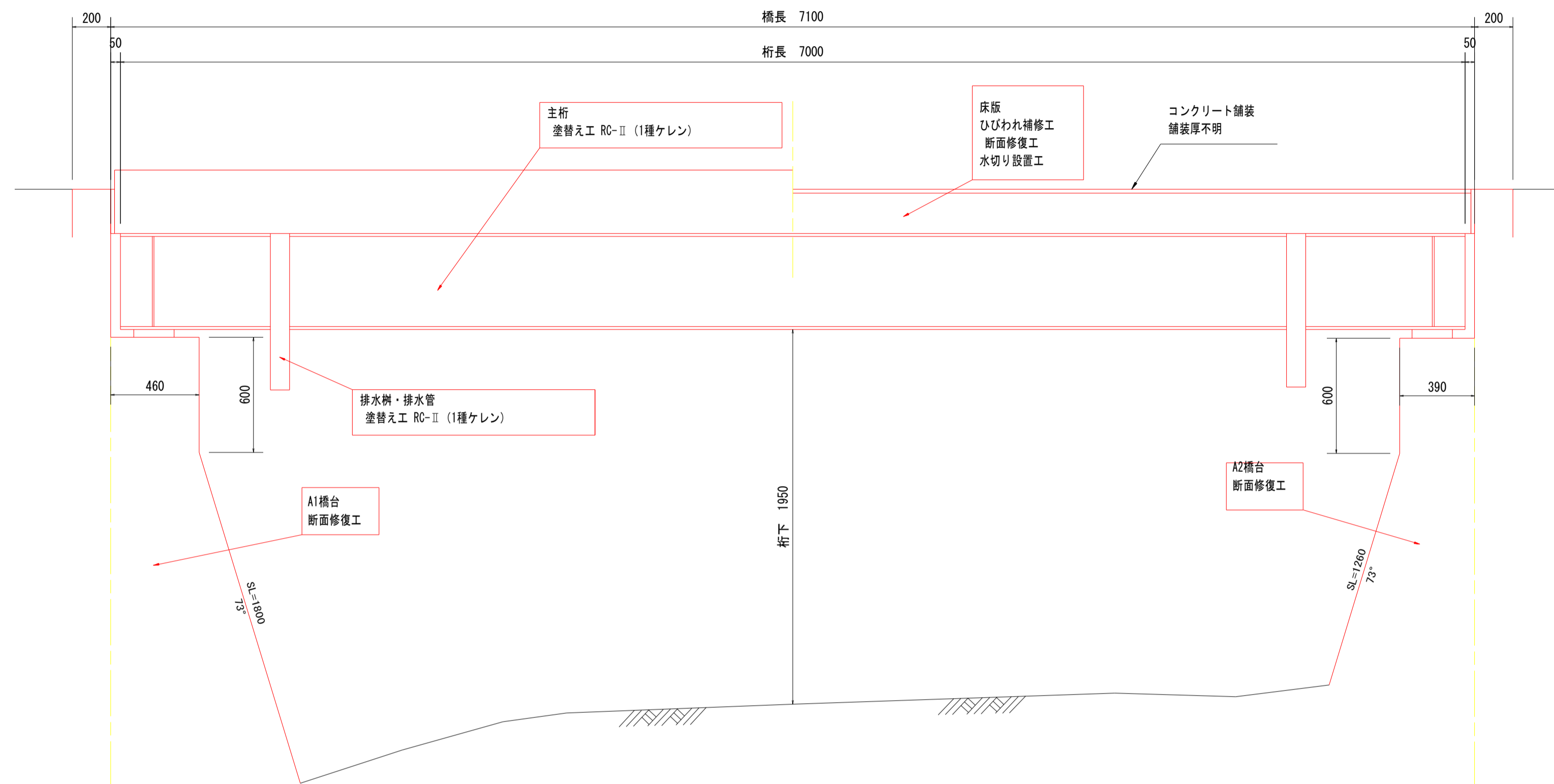


工事名	橋梁修繕工事（本谷奥橋）		
図面名	本谷奥橋 一般図		
作成年月	2026年6月		
縮尺	図示	図面番号	2 / 8
工事場所	福山市 沼隈町 地内		
事業者名	沼隈建設産業課		

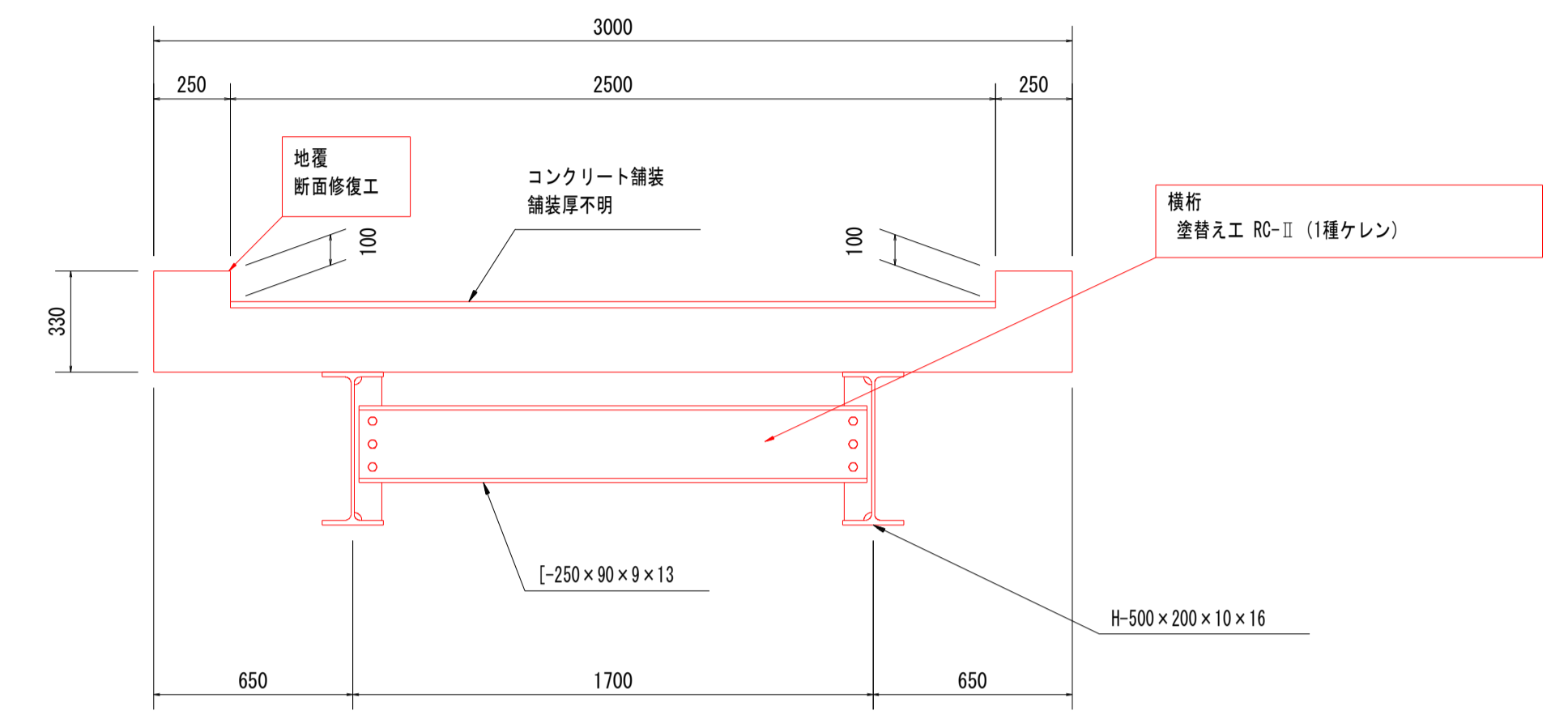
# 本谷奥橋 補修一般図

S=1:20

## 側面図



## 断面図



## 平面図

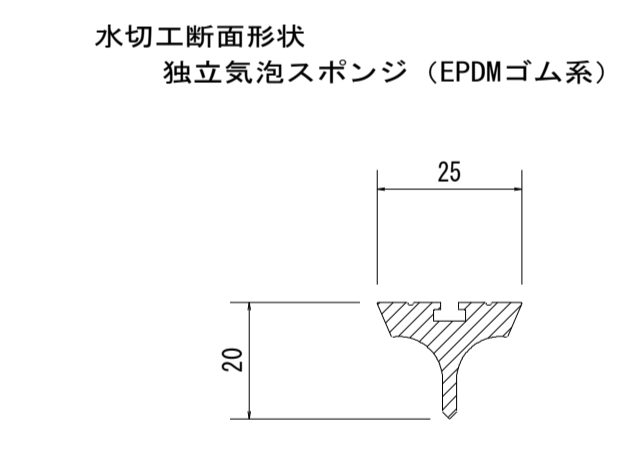
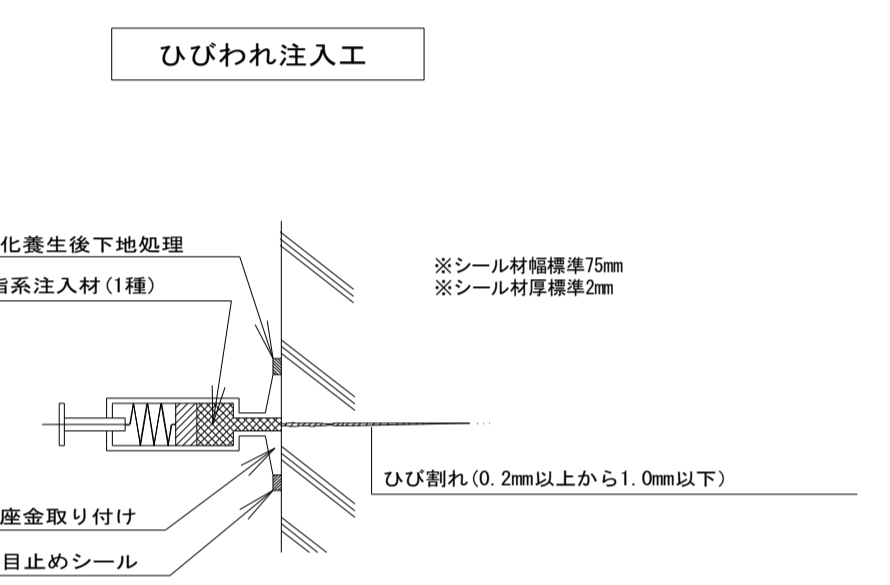
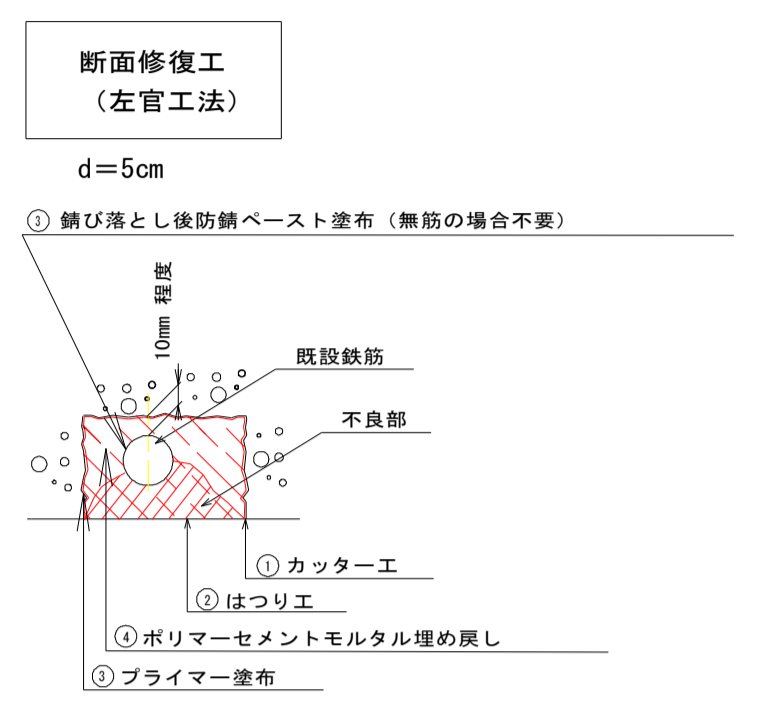
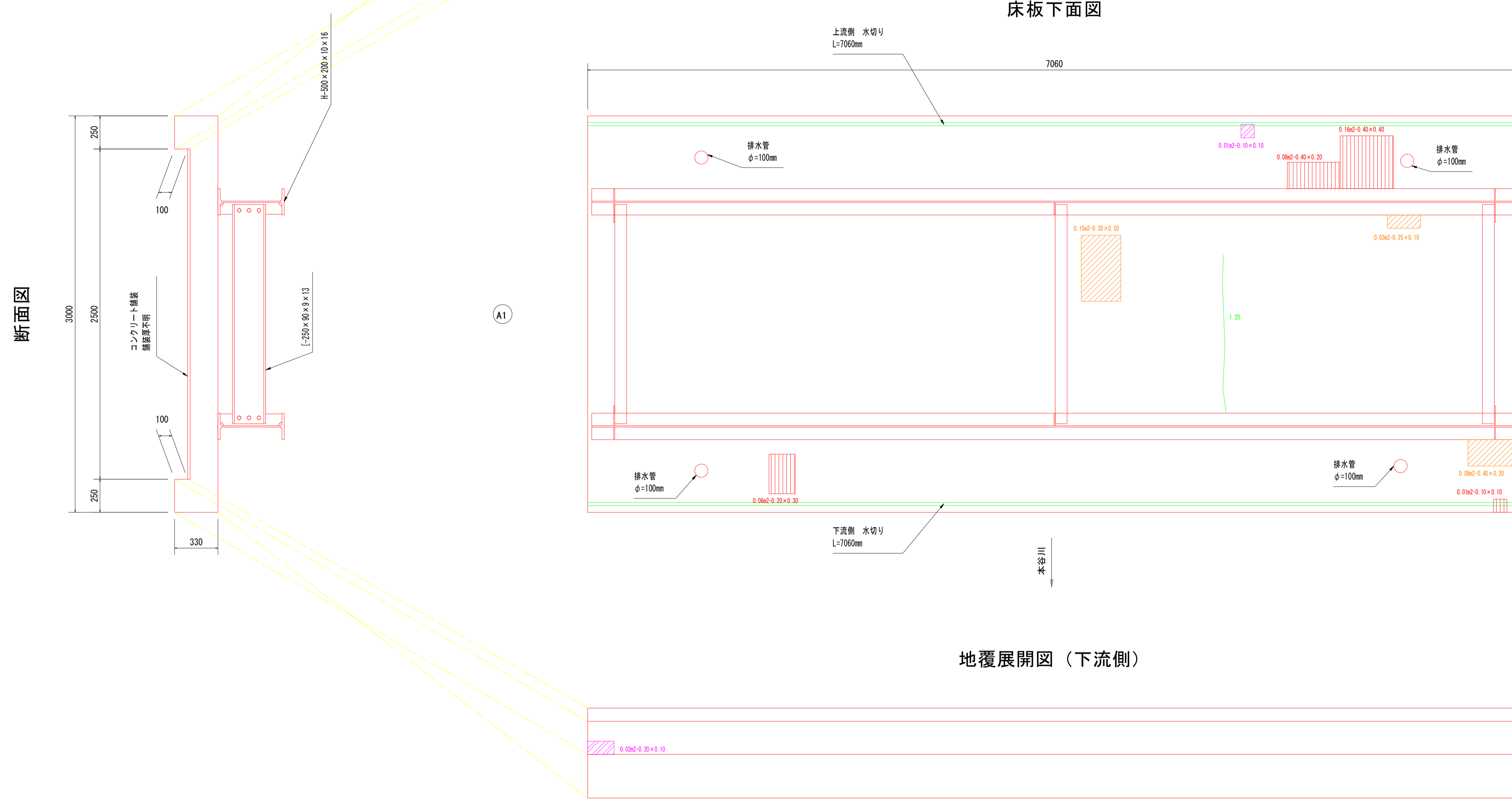


工事名	橋梁修繕工事(本谷奥橋)		
図面名	本谷奥橋 補修一般図		
作成年月	2026年6月		
縮尺	図示	図面番号	3 / 8
工事場所	福山市 沼隈町 地内		
事業者名	沼隈建設産業課		

地覆展開図（上流側）

床板下面図

地覆展開図（下流側）



補修工法凡例

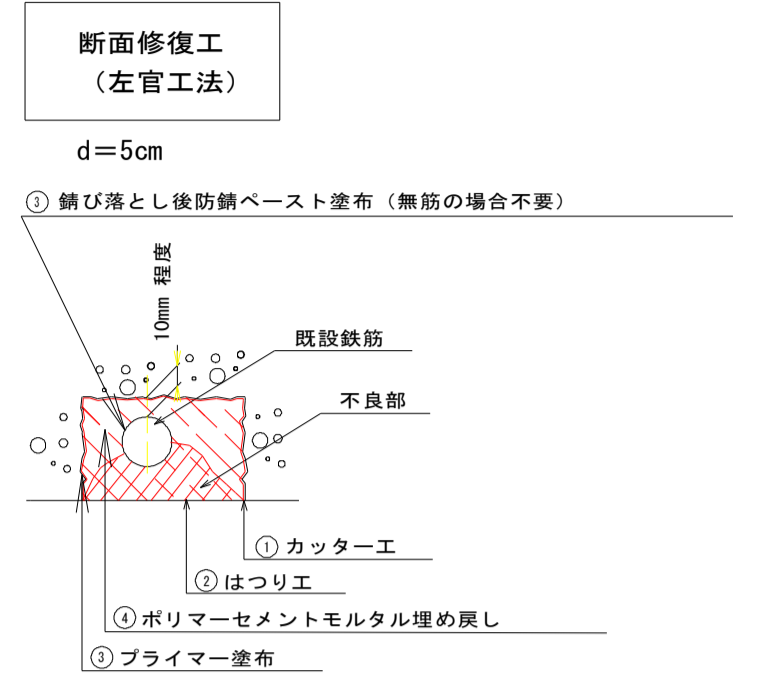
損傷	記号	補修対策工法
ひびわれ(0.2~1.0mm) 図中の数値は長さ(m)を示す。		ひびわれ修復工
うき・剥離 図中の数値は面積(m <sup>2</sup> )と幅×高さ(m)を示す。		断面修復工
鉄筋露出 図中の数値は面積(m <sup>2</sup> )と幅×高さ(m)を示す。		断面修復工
変形・欠損 図中の数値は面積(m <sup>2</sup> )と幅×高さ(m)を示す。		断面修復工
コンクリート表面漏水部		水切設置工

注記) 施工に当っては現地計測の上 施工数量を決定の事。

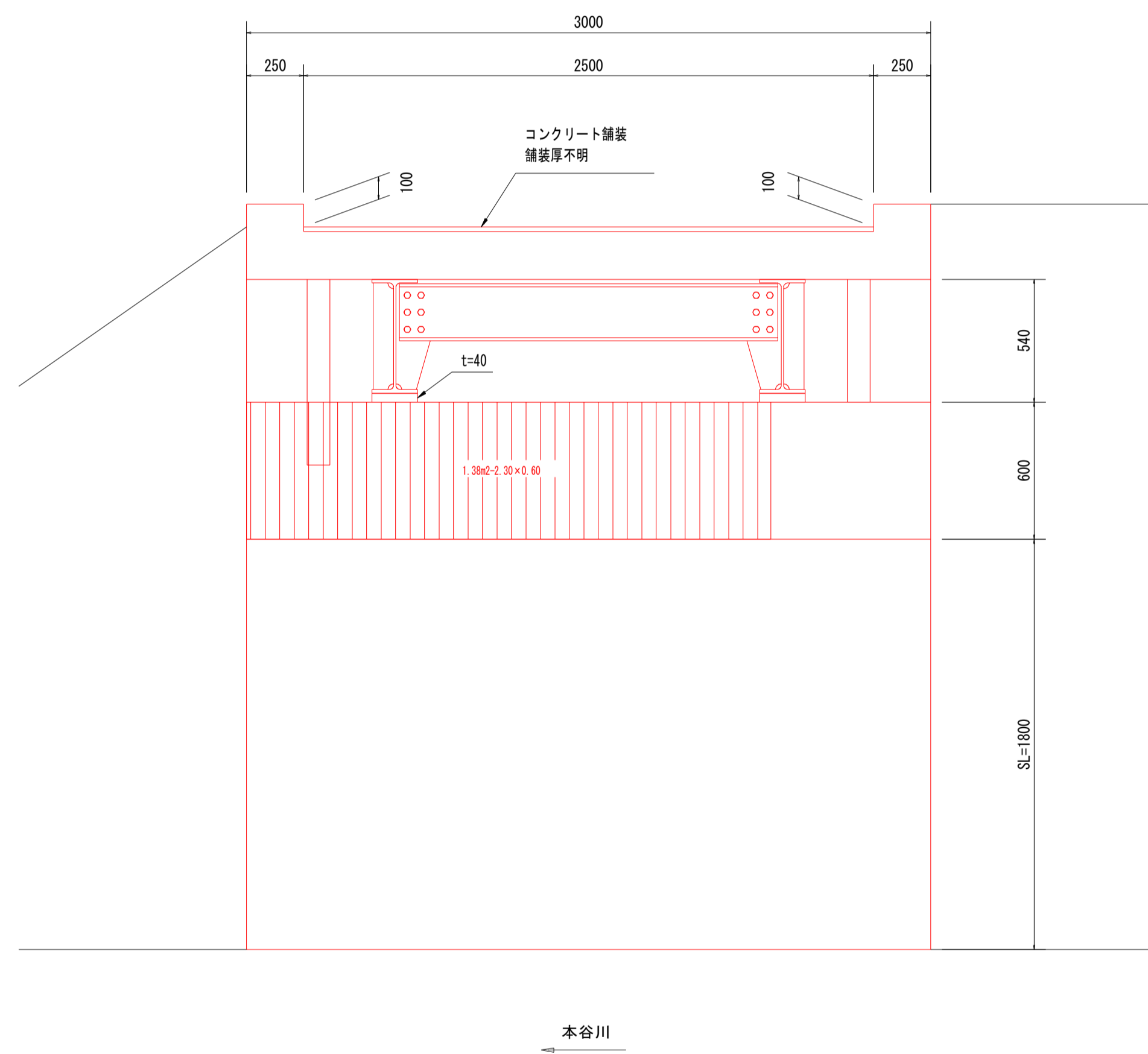
工事名	橋梁補修工事(本谷奥橋)		
図面名	本谷奥橋 床板下面・地覆補修図		
作成年月	2026年6月		
縮尺	図示	図面番号	4 / 8
工事場所	福山市 沼隈町 地内		
事業者名	沼隈建設産業課		

# 本谷奥橋 橋台補修図

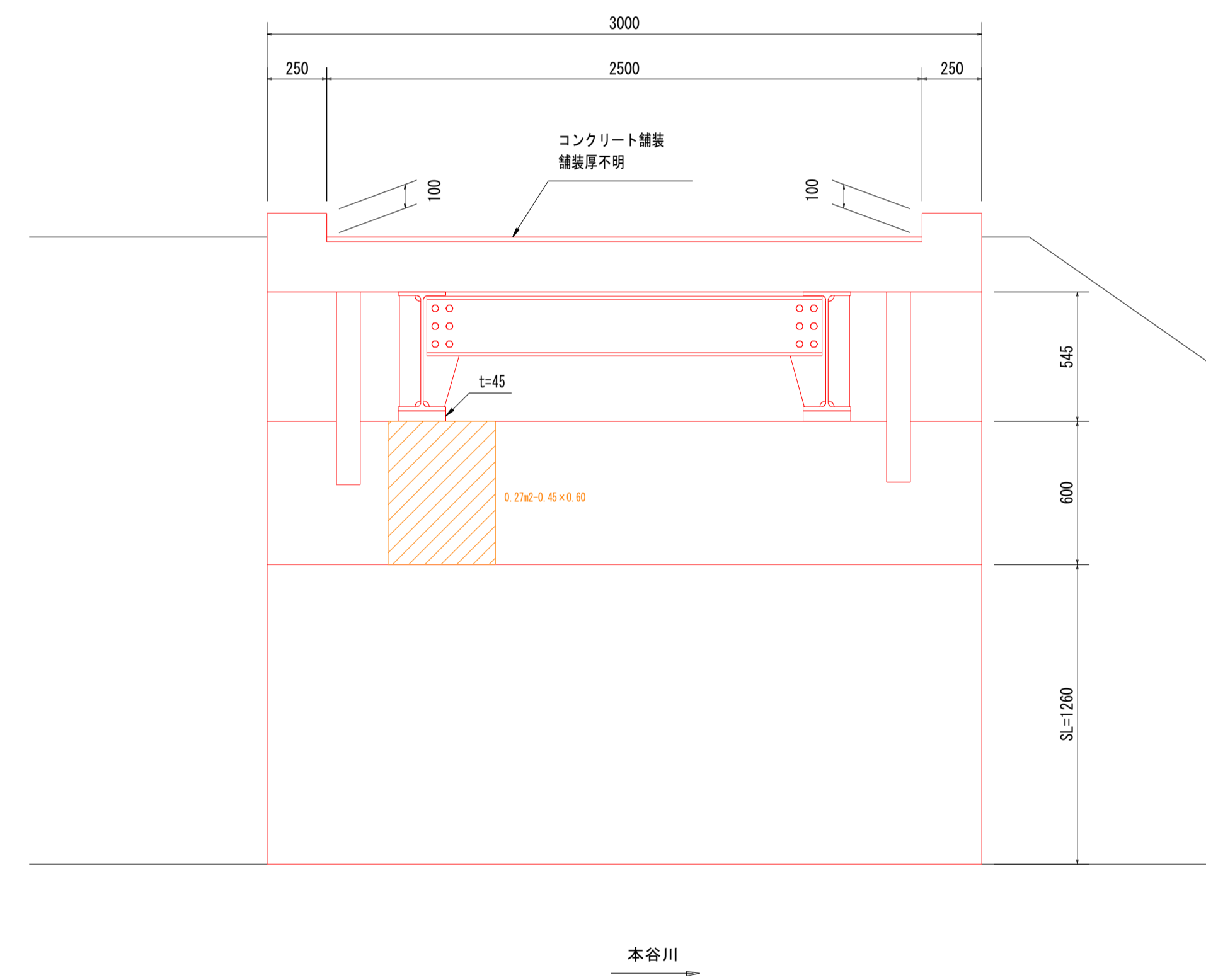
S=1:20



A1橋台正面図



A2橋台正面図



補修工法凡例

損傷	記号	補修対策工法
うき・剥離 図中の数値は面積 (m <sup>2</sup> ) と幅×高さ (m) を示す。	0.09m <sup>2</sup> -0.40×0.20	断面修復工
鉄筋露出 図中の数値は面積 (m <sup>2</sup> ) と幅×高さ (m) を示す。	0.08m <sup>2</sup> -0.40×0.20	断面修復工

注記) 施工に当っては現地計測の上 施工数量を決定の事。

工事名	橋梁修繕工事 (本谷奥橋)		
図面名	本谷奥橋 橋台補修図		
作成年月	2026年6月		
縮尺	図示	図面番号	5 / 8
工事場所	福山市 沼隈町 地内		
事業者名	沼隈建設産業課		

# 本谷奥橋 鋼部材塗装塗り替え図

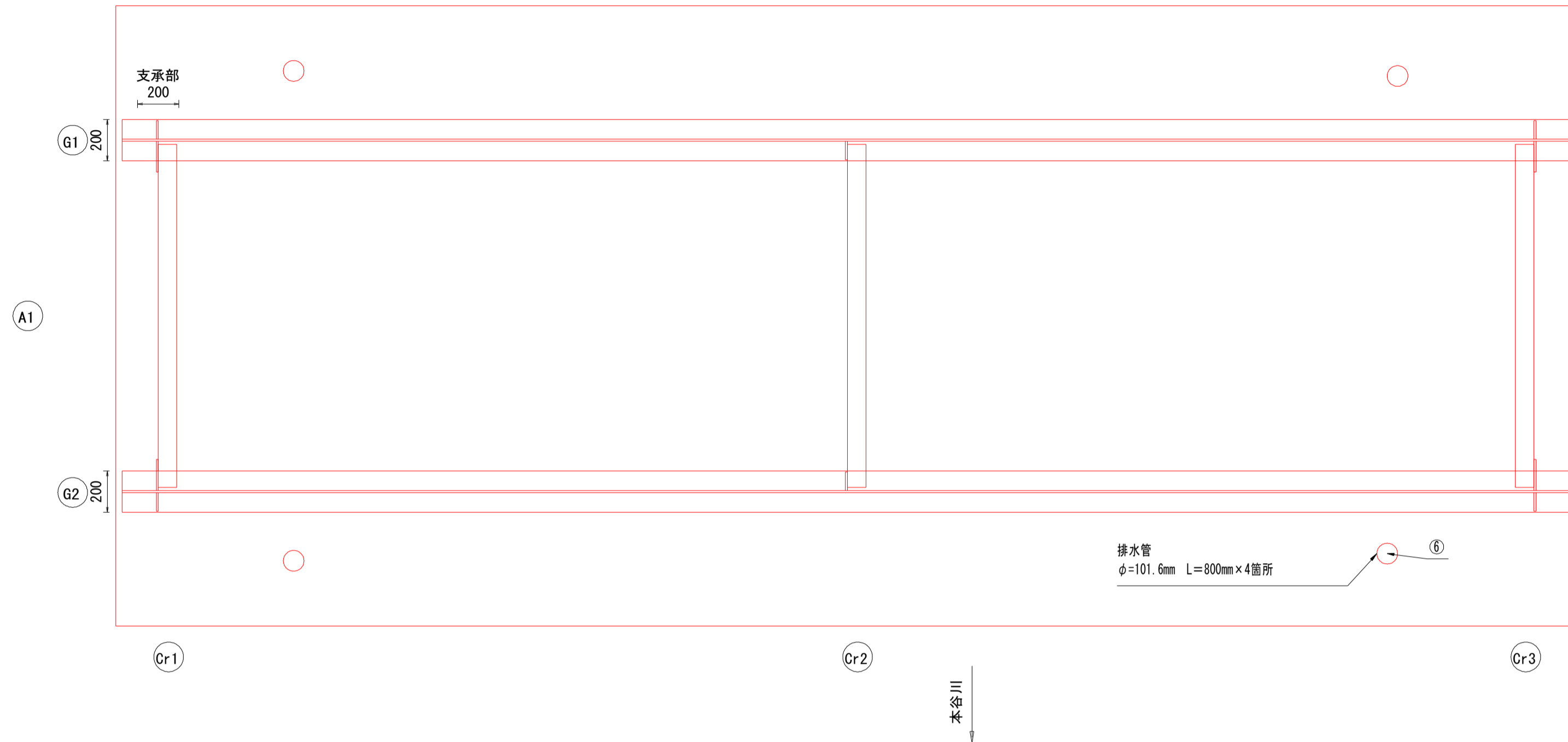
S=1:20

主桁 G2

H-500×200×10×16  
補剛材 t=9

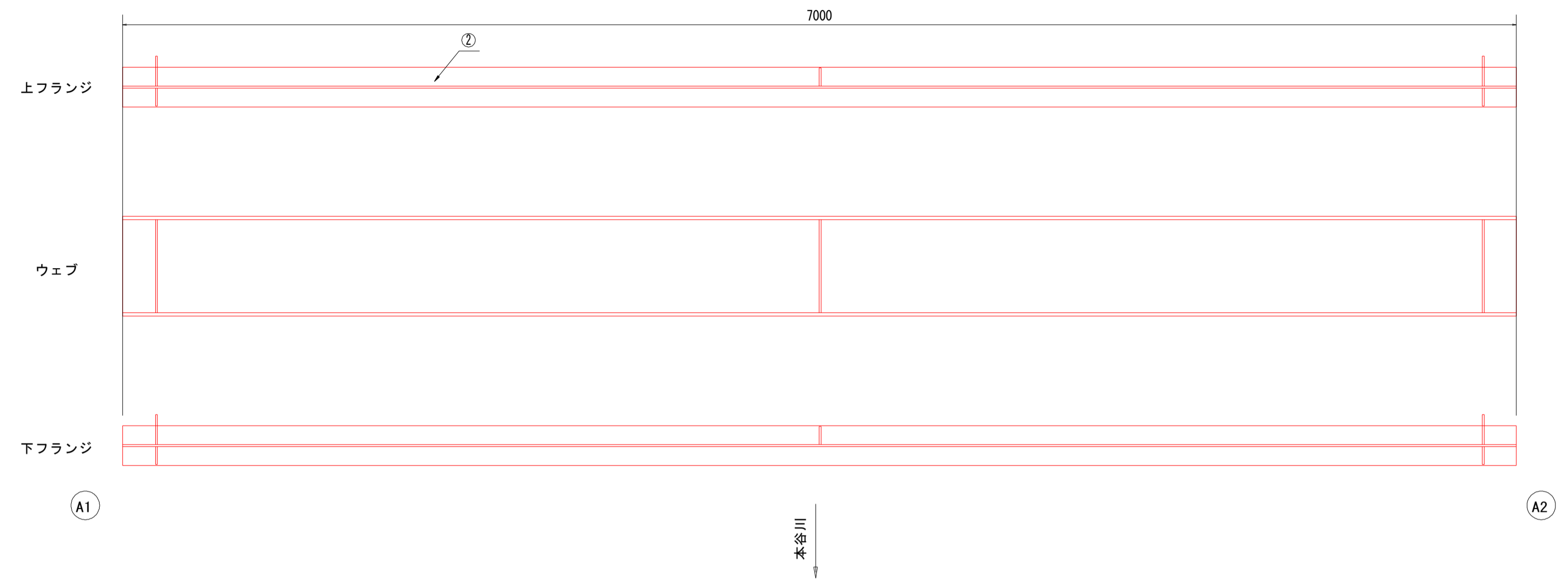
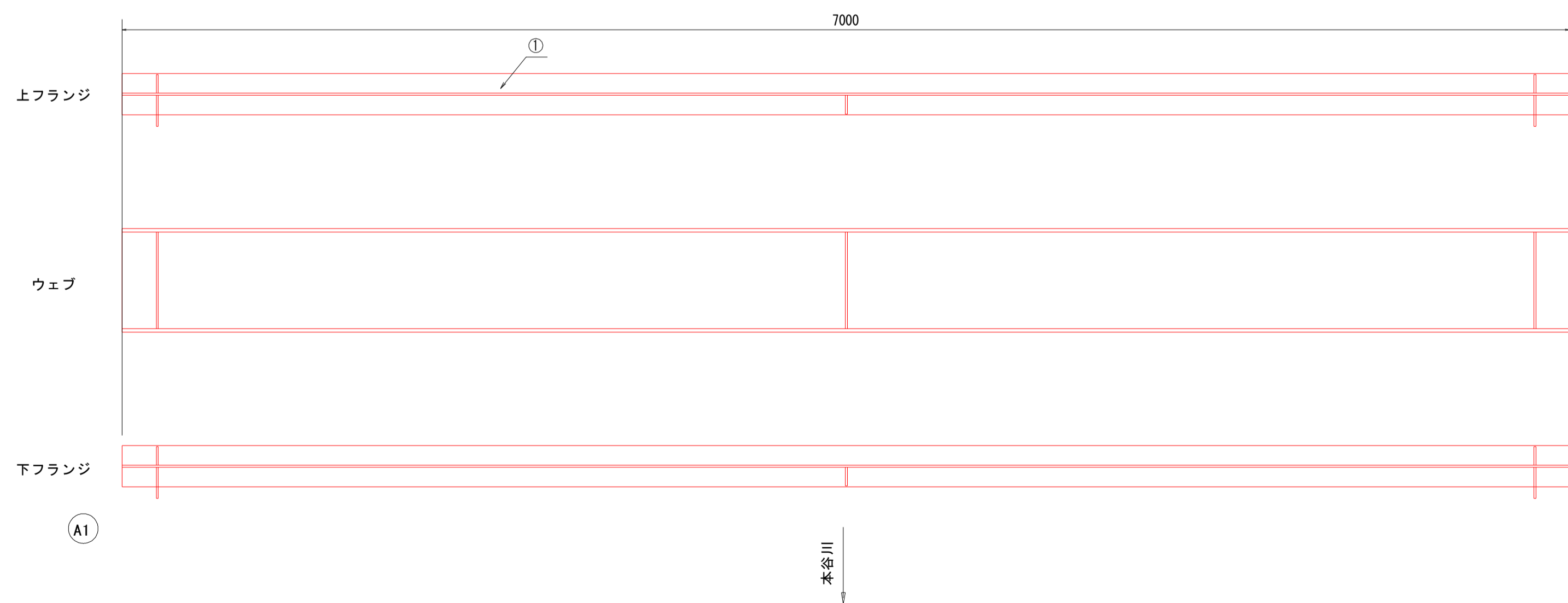
※鋼部材は全体的に防食機能の劣化及び錆

## 鋼部材配置図

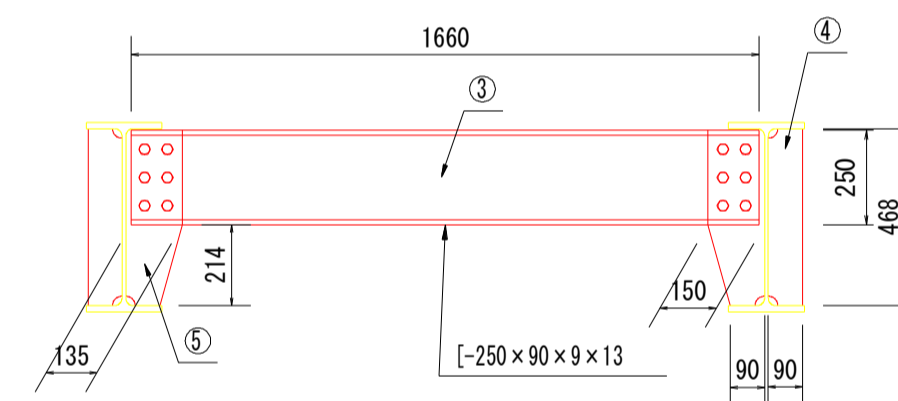


主桁 G1

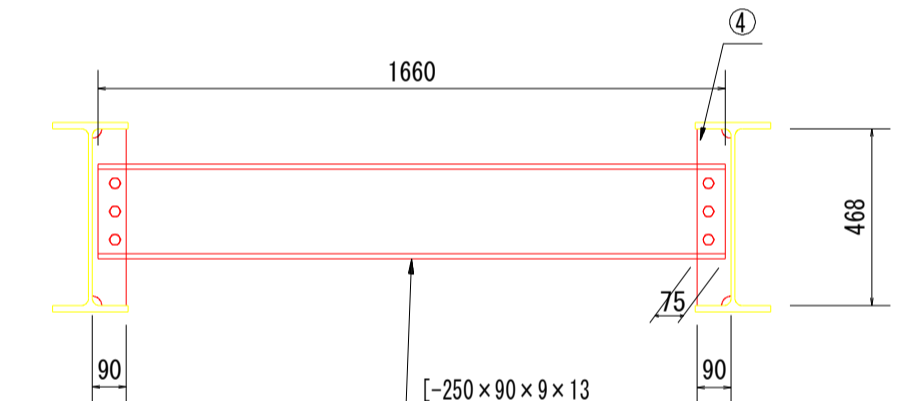
H-500×200×10×16  
補剛材 t=9



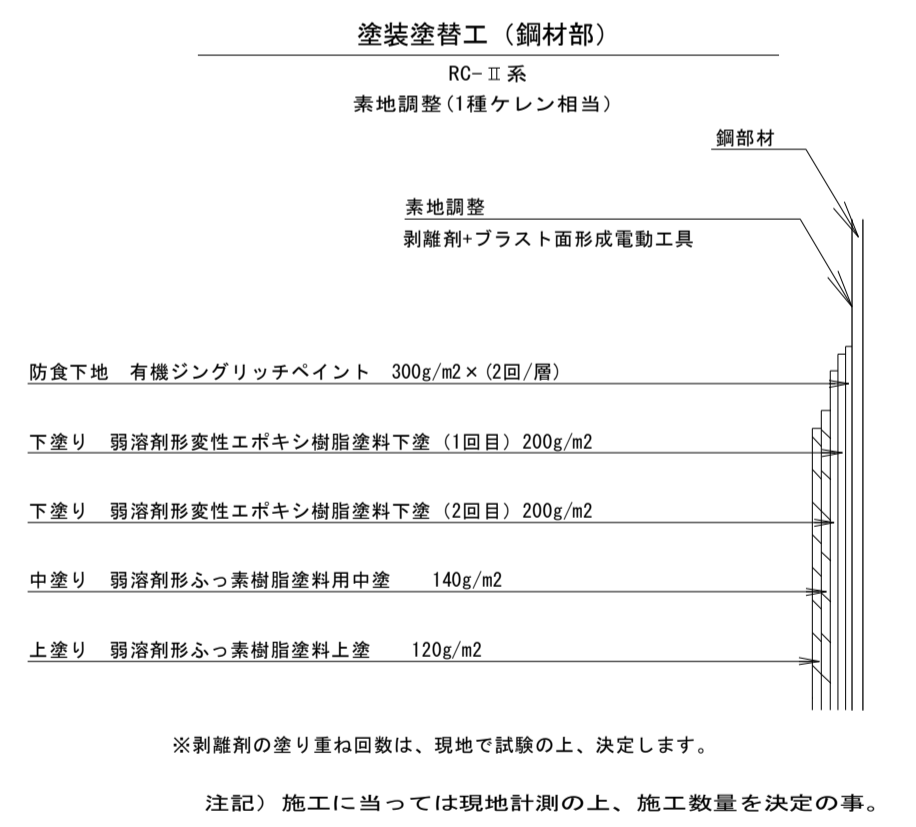
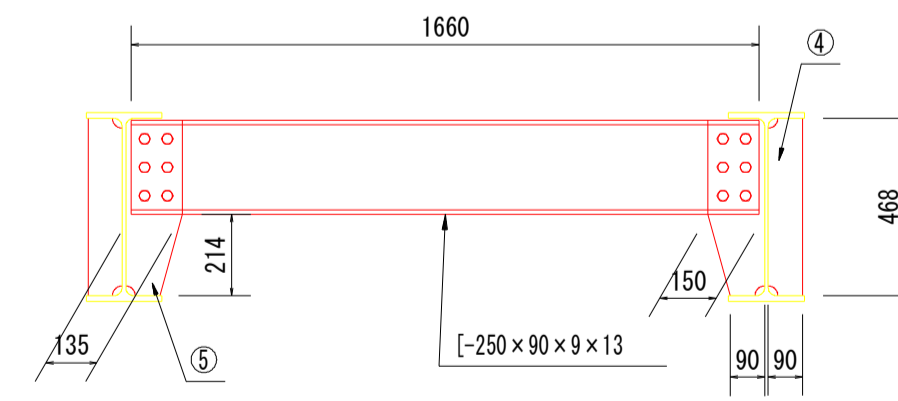
A1側 横桁 Cr1



中間部 横桁 Cr2



A2側 横桁 Cr3



補修工法凡例

損傷	記号	補修対策工法
防食機能の劣化	①	塗装塗替工 (1種ケレン相当)

数量表 (鋼材)

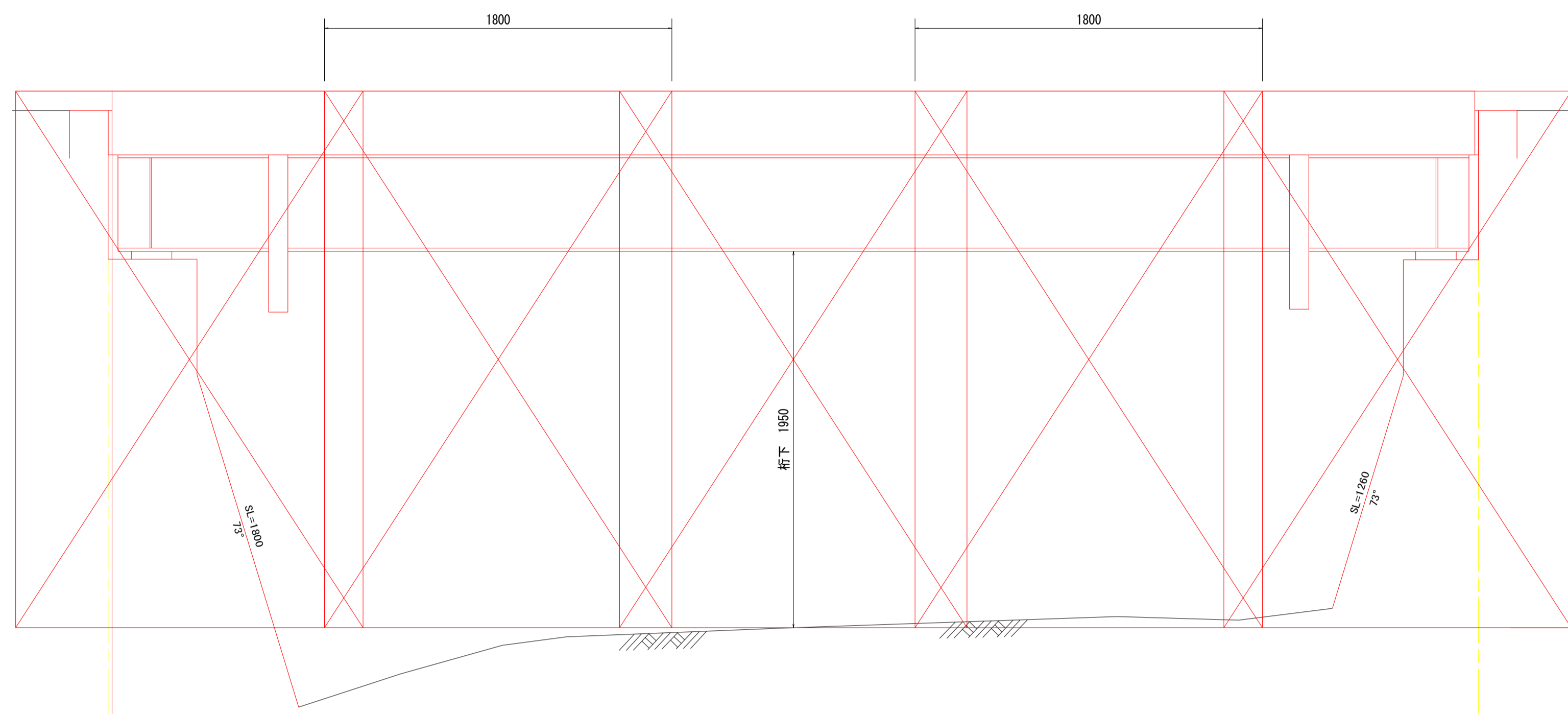
番号	鋼材種別 (mm)	桁長 (mm)	本数	箇所
①	H-500×200×10×16	7000	1	主桁 (G1)
②	H-500×200×10×16	7000	1	主桁 (G2)
③	[-250×90×9×13	1660	3	横桁 (Cr1~Cr6)
④	90×468 (t=9)	-	6	補剛材 (Cr2)
⑤	(135×250) + (214×120) (t=9)	-	4	補剛材 (Cr1, Cr3)
⑥	φ101.6×800 (t=3, 6)	-	4	排水溝・排水管

注記) 施工に当たっては現地計測の上、施工数量を決定の事。

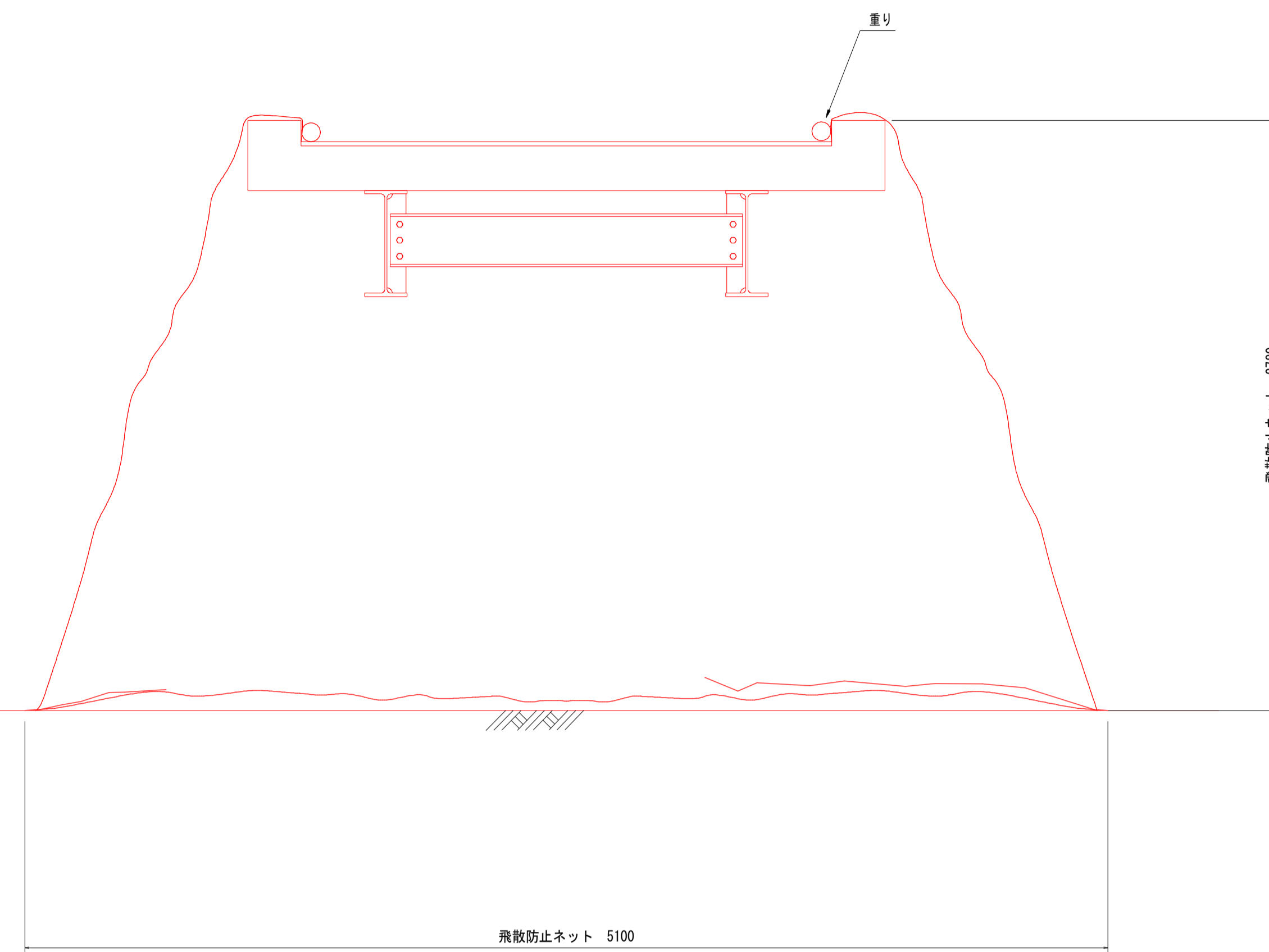
工事名	橋梁修繕工事 (本谷奥橋)		
図面名	本谷奥橋 鋼部材塗装塗り替え図		
作成年月	2026年6月		
縮尺	図示	図面番号	6 / 8
工事場所	福山市 沼隈町 地内		
事業者名	沼隈建設産業課		

本谷奥橋 仮設図 飛散防止 (参考図) S=1:20

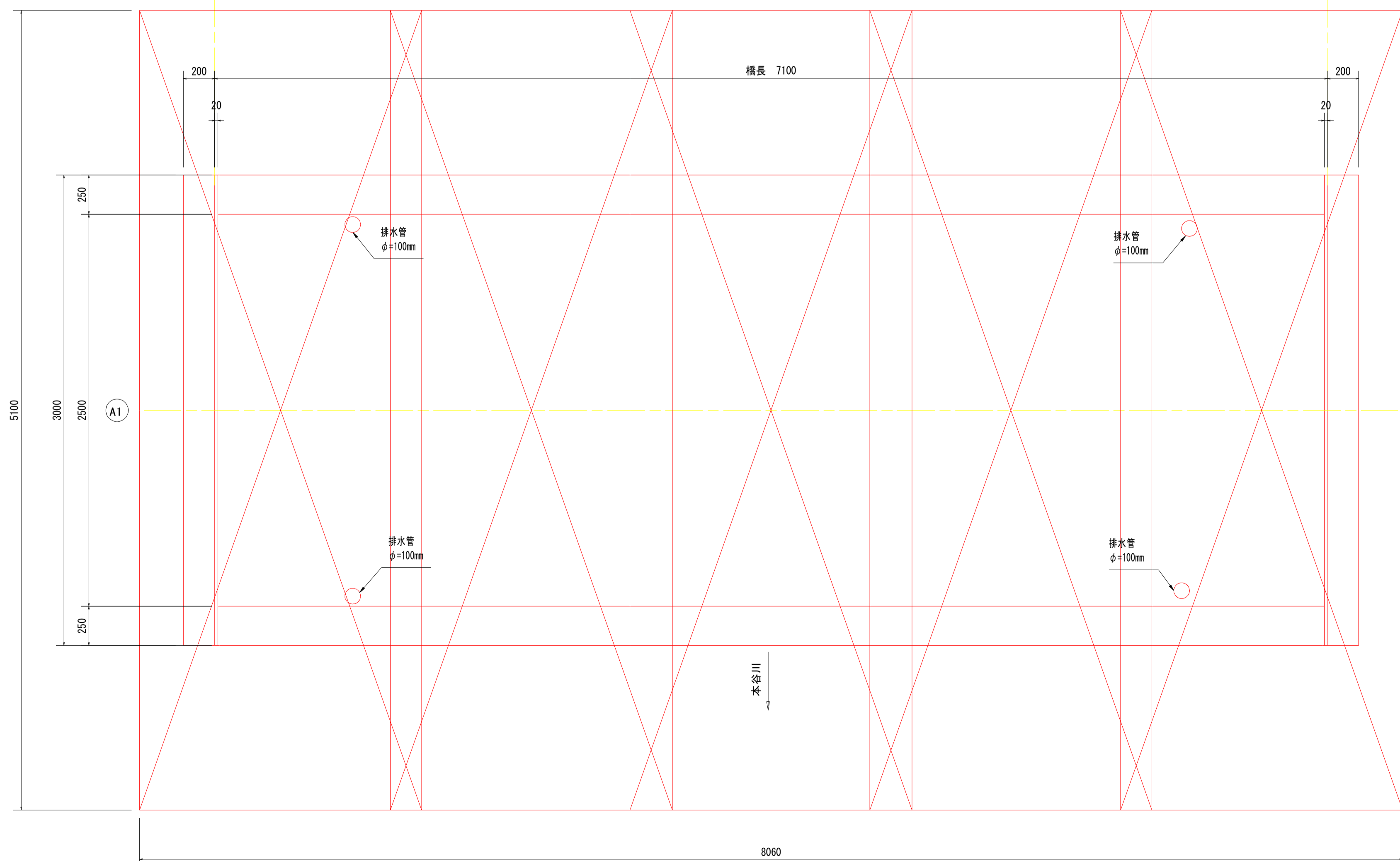
側面図



断面図



平面図



仮設工 飛散防止 数量表

名称	計算式	面積
シート防護工 側面	$8.06 \times 2.78 \times 2$	44.81 m <sup>2</sup>
シート防護工 下面	$8.06 \times 5.10$	41.11 m <sup>2</sup>
合計		85.92 m <sup>2</sup>
建築工事用シート JIS 1類	$1.8 \times 5.1 \times 0.4$	15枚

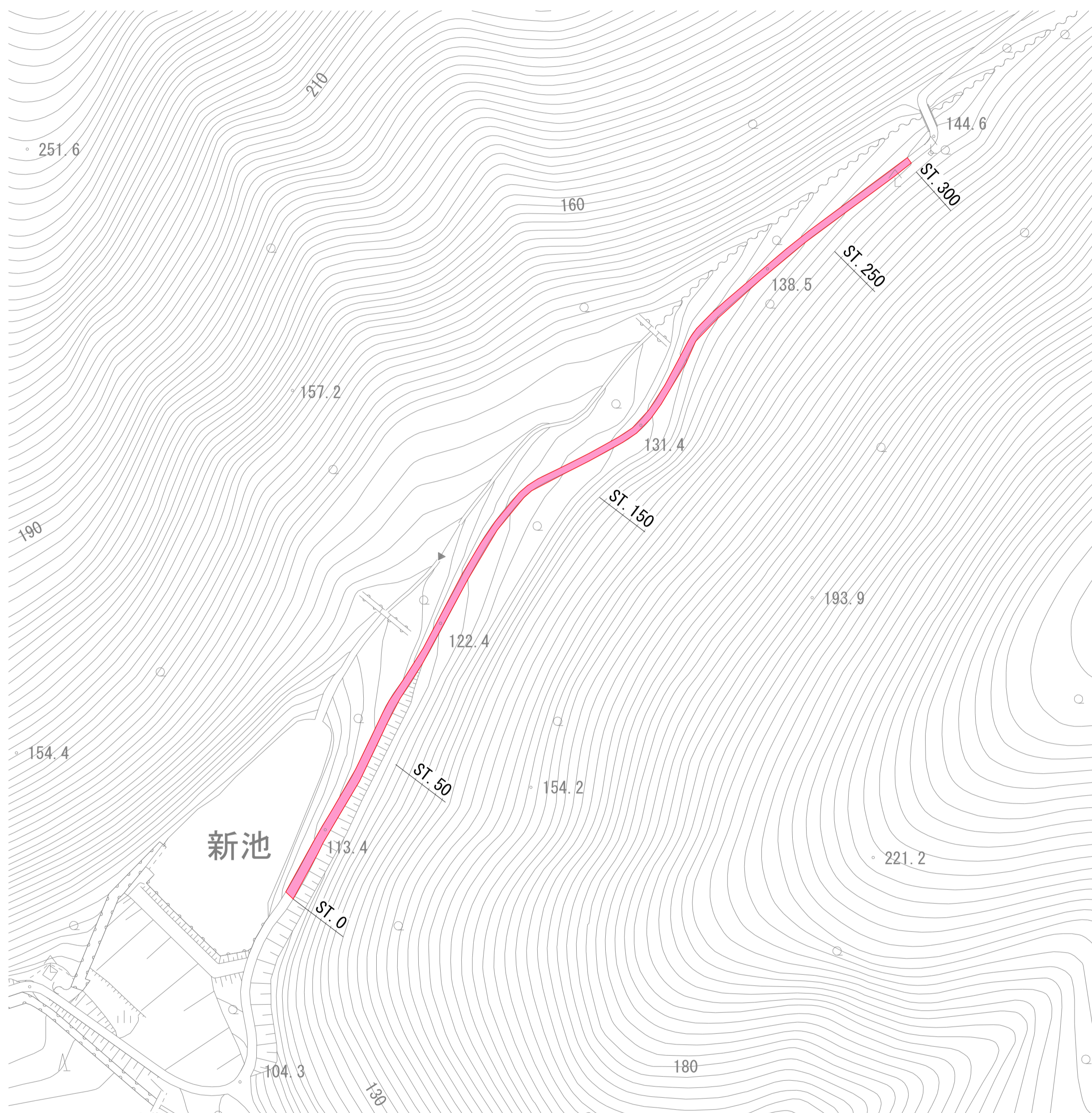
(注) 本谷奥橋の仮設については、道路状況（道が使用されていない状態）であり、材料の運搬などを考慮し、シート（賃貸）で考察している（参考）

① 桁下高は地形状態を考慮し、平均値で高さを選定

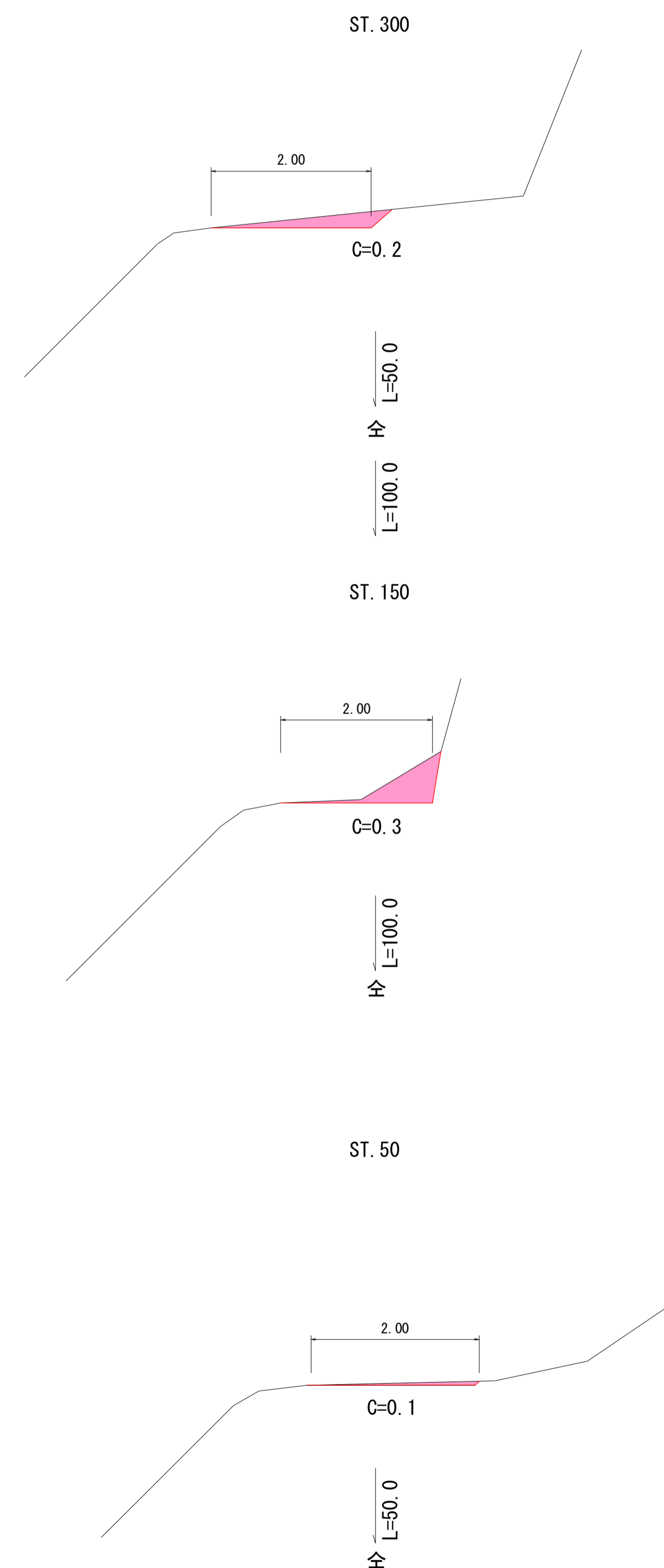
工事名	橋梁修繕工事（本谷奥橋）		
図面名	本谷奥橋 仮設図 飛散防止（参考図）		
作成年月日	2026年6月		
縮尺	図示	図面番号	7 / 8
工事場所	福山市 沼隈町 地内		
事業者名	福山市		

本谷奥橋 仮設図 工事用道路 (参考図)

平面図  
1:1000



横断面図  
1:100



工事名	橋梁修繕工事(本谷奥橋)		
図面名	本谷奥橋 仮設図 工事用道路 (参考図)		
作成年月日	2026年6月		
縮尺	図示	図面番号	8 / 8
工事場所	福山市 沼隈町 地内		
事業者名	福山市		

これ以降  
参考図書



# 施工単価表

ひび割れ補修工(低圧注入工法)  
補修延べ延長25m未満の場合

S1020035

単第0 -0002 表

1 構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.500	人			
特殊作業員	2.400	人			
普通作業員	1.800	人			
エポキシ樹脂系注入材 ボンドE2601同等品	0.130	kg			
エポキシ樹脂系パテ状シール材 ボンドE390 6kgセット	0.397	kg			
低圧注入器具	5.000	個			
諸雑費	6	%			#09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=2 【F】注入材(kg) C=3 【F】シール材(kg) E=4 【F】低圧注入器具(個)			B=0.13 D=0.29 F=5	注入材の必要数量(kg/構造物) シール材の設計数量(kg/構造物) 低圧注入器具の必要数量(個/構造物)	







# 施工単価表

ダンプトラック運転  
オンロード・ディーゼル・4 t 積級

S9050

単第0 -0006 表

1

日 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	19.20	L			
運転手(一般)	0.89	人			
ダンプトラック オンロード・ディーゼル 4t積級	1.02	供用日			
タイヤ損耗費 ダンプトラック 4 t (良)	1.02	供用日			
諸雑費	1	式			
*** 単位当たり ***	1	日			
A=2 C=19.2 E=1 G=0	オンロード・ディーゼル・4 t 積級 軽油消費量 (L / 日) 路面状況：良好 労務単価の夜間等割増率		B=0.89 D=1.02 F=1	運転労務数量 (人 / 日) 機械損料数量 (供用日 / 日)	



















# 施工単価表

掘削

SPK25040001

単第0 -0016 表

土砂 上記以外(小規模)

標準以外

1

m3 当り

機械構成比: 20.13%

労務構成比:

71.97%

材料構成比:

7.90%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

2,678.70000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	20.13%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	71.97%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.90%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂 E=8 標準以外			B=5 上記以外(小規模)		











10.1 補修数量総括表

工種	種別	細別	規格	単位	数量							
					上部工+地覆	下部工			路面工		合計	
						A1橋台	A2橋台	下部工計	コンクリート舗装	その他		
橋梁工	断面修復工 (防錆処理 有)	ポリマーセメントモルタル d=5cm	面積	m2	0.57	1.38	0.27	1.65	—	—	2.22	
			体積	m3	0.03	0.07	0.01	0.08	—	—	0.11	
	断面修復工 (防錆処理 無)	ポリマーセメントモルタル d=5cm	面積	m2	0.03	—	—	—	—	—	0.03	
			体積	m3	0.002	—	—	—	—	—	0.002	
	ひびわれ注入工	0.2mm~1.0mm	エポキシ樹脂系注入材1種	m	m	1.20	—	—	—	—	—	1.20
				kg	kg	0.10	—	—	—	—	—	0.10
			シーラ材	kg	0.29	—	—	—	—	—	—	0.29
			注入器具	本	5.00	—	—	—	—	—	—	5.00
	水切り工	EPDM系ゴム	25mm×20mm	m	14.12	—	—	—	—	—	14.12	
	塗替え工	塗膜剥離剤	鋼構造物用 水系	m2	27.34	—	—	—	—	—	27.34	
		塗装塗替え	RC-II系 1種ケレン	m2	27.34	—	—	—	—	—	27.34	
産廃		有害物質含む	kg	41.00	—	—	—	—	—	41.00		
仮設工	飛散防止対策	シート防護工	—	m2	—	—	—	—	—	85.92	85.92	
		建設用シート JIS 1類	1.8×5.1×0.4	枚	—	—	—	—	—	15	15	

10.2 補修数量

10.2.1 上部工損傷数量

	床版		地覆
--	----	--	----

位置	コンクリートひびわれ								漏水	コンクリート断面欠損							
	0.2mm未満	0.2mm～ 1.0mm	1.1mm～ 2.0mm	2.1mm～ 3.0mm	3.1mm～ 4.0mm	4.1mm～ 5.0mm	5.1mm～	遊離石灰		うき 剥離	鉄筋露出			変形 欠損	豆板 (有筋)		
	m									m2							
	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量		数量	数量	数量			数量	数量	
床版 地覆										0.15	0.06					0.01	
		1.20								0.03	0.08					0.02	
										0.08	0.16						
											0.01						
	小計	0.00	1.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.26	0.31			0.03	0.00	

10.2.2 下部工補修数量

10.2.2.1 A1橋台

位置	コンクリートひびわれ									漏水	コンクリート断面欠損								
	0.2mm未満	0.2mm～1.0mm		1.1mm～2.0mm	2.1mm～3.0mm	3.1mm～4.0mm	4.1mm～5.0mm	5.1mm～	遊離石灰		うき剥離	鉄筋露出	変形欠損	豆板(有筋)	豆板(無筋)				
	m										m2								
	数量	数量		数量	数量	数量	数量	数量	数量		数量	数量		数量	数量	数量			
A1橋台														1.38					
小計	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		1.38	0.00	0.00	0.00			

10.2.2.2 A2橋台

位置	コンクリートひびわれ									漏水	コンクリート断面欠損								
	0.2mm未満	0.2mm～1.0mm		1.1mm～2.0mm	2.1mm～3.0mm	3.1mm～4.0mm	4.1mm～5.0mm	5.1mm～	遊離石灰		うき剥離	鉄筋露出	変形欠損	豆板(有筋)	豆板(無筋)				
	m										m2								
	数量	数量		数量	数量	数量	数量	数量	数量		数量	数量		数量	数量	数量			
A2橋台											0.27								
小計	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.27		0.00	0.00	0.00	0.00			

10.3 ひびわれ注入材料

10.3.1 上部工 床版 地覆

(1)エポキシ樹脂注入

ひびわれ幅 0.2mm~1.0mm

$$\begin{array}{rcl} \text{ひびわれ延長 } L & = & \text{床版} \\ & & 1.2 \\ & & = 1.20 \text{ m} \end{array}$$

(2)エポキシ樹脂注入工標準使用量

注記) ・ひびわれ深さは、ひびわれ幅の200倍を推定した。  
 コンクリートメンテナンス協会:【ひび割れ注入工におけるひび割れ深さの推定について】より  
 ・注入材の密度はカタログ  
 ・シール材の密度はカタログ

0.2mm~1.0mm

・注入材 (エポキシ樹脂系注入材 1種)

$$\begin{array}{rcl} \text{ひびわれ幅(m)} \times \text{深さ(m)} \times \text{延長(m)} \times \text{密度(kg/m}^3\text{)} & & \\ 0.0006 & \times & 0.12 \times 1.20 \times 1150 & = & 0.10 & \text{kg} \\ & & 0.10 \times \text{ロス率 } 0.3 & = & 0.13 & \text{kg} \end{array}$$

・シール材

$$\begin{array}{rcl} \text{シール材幅(m)} \times \text{シール材厚(m)} \times \text{シール材幅75(mm)、厚み2(mm)} \times \text{延長(m)} \times \text{密度(kg/m}^3\text{)} & & \\ 0.075 & \times & 0.002 \times 1.20 \times 1600 & = & 0.29 & \text{kg} \\ & & 0.29 \times \text{ロス率 } 0.37 & = & 0.397 & \text{kg} \end{array}$$

・注入器具

$$\begin{array}{rcl} \text{250(mm)間隔} & & \\ 1.20\text{m} / 0.25\text{m} & = & 5 & \text{本} \end{array}$$

10.4 断面修復工

10.4.1 断面修復工 床版 地覆		修復深さ d=5cm		防錆処理有			
ポリマーセメントモルタル埋戻し							
A	=	0.26	+	0.31	=	0.57	m2
V	=			0.57	×	0.05	m3
断面修復材		V(m3)		0.03	=	0.03	m3
		0.03					
10.4.2 断面修復工 床版 地覆		修復深さ d=5cm		防錆処理無			
ポリマーセメントモルタル埋戻し							
A	=	0.03			=	0.03	m2
V	=			0.03	×	0.05	m3
断面修復材		V(m3)		0.002	=	0.002	m3
		0.002					
10.4.3 断面修復工 A1橋台		修復深さ d=5cm		防錆処理有			
ポリマーセメントモルタル埋戻し							
A	=	1.38			=	1.38	m2
V	=			1.38	×	0.05	m3
断面修復材		V(m3)		0.07	=	0.07	m3
		0.07					
10.4.4 断面修復工 A2橋台		修復深さ d=5cm		防錆処理有			
ポリマーセメントモルタル埋戻し							
A	=	0.27			=	0.27	m2
V	=			0.27	×	0.05	m3
断面修復材		V(m3)		0.01	=	0.01	m3
		0.01					

## 10.5 鋼材塗装塗替え工

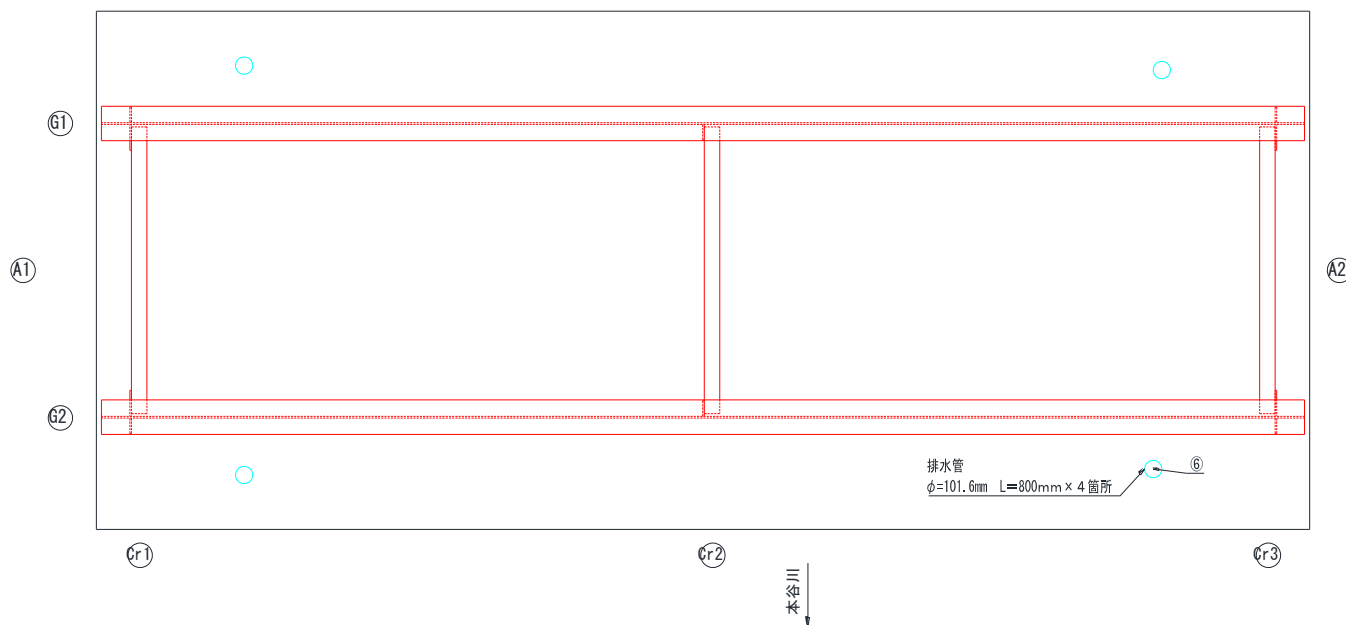
塗装仕様

ケレン 1種相当  
塗り替え塗装仕様 Rc-I

型鋼単位長さ当たり表面積:JIS規格にあるもの(デザインデータブックより)

鋼材種別	①単位質量(kg/m)	②塗装面積(m <sup>2</sup> /kg)	単位表面積(m <sup>2</sup> /m) (全面積)	適用
H-500×200×10×16	88.2	0.0199	1.755	主桁
[-250×90×9×13	34.6	0.0235	0.813	横桁

鋼部材配置図



塗装面積の計算

・各鋼材部面積

橋体工	箇所	単位表面積 (m2/m)	幅	長さ(m)	本数 箇所 数	面数	NeT(%)	面積	適用	番号
主桁	G1	1.755		7.000	1	1	100	12.285	H-500	①
〃	G2	1.755		7.000	1	1	100	12.285	〃	②
横桁	G1,2間	0.813		1.660	3	1	100	4.049	[-300	③
補剛材	横桁部		0.090	0.468	6	2	100	0.505	補剛材 9mm	④
〃	端横桁部	$A=(0.250 \times 0.150) + (0.090 + 0.150) \times 0.214 \times 1/2 = 0.063$			4	2	100	0.504	補剛材 9mm	⑤
排水柵・排水管		$A=0.1016 \times \pi \times 0.800 = 0.255$			4	1	100	1.020	外径φ101.6mm	⑥
					Σ =			30.648	m2	

・タッチ部面積

橋体工	箇所	単位表面積 (m2/m)	幅	長さ(m)	本数 箇所 数	面数	NeT(%)	面積	適用	番号
-) タッチ部	UF+床版		0.200	7.000	1	1	100	-1.400	G1	
〃	〃		0.200	7.000	1	1	100	-1.400	G2	
〃	LF+支承		0.200	0.200	4	1	100	-0.160	G1,G2	
〃	横桁+補剛材		0.075	0.250	2	2	100	-0.075	中間横桁	
〃	端横桁+補剛材		0.135	0.250	4	2	100	-0.270	A1,A2	
					Σ =			-3.305	m2	

① 塗装面積                      各鋼材部面積                      タッチ部面積

$$A = 30.648 + (-3.305) = 27.343 \text{ m}^2$$

RC-II 1種ケレン相当(塗膜剥離剤+乾式ブラスト工法【粗面形成】)  
(ブラスト面形成動力工具等を使用し旧塗膜を全面除去する)

塗装工程	塗料名	使用量(g/m2)
素地調整	1種相当	
防食下地	有機ジンクリッチペイント	(600)
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200
中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用上塗	120

② 剥離剤      鋼構造物用      水系塗膜はく離剤

各鋼材部面積                      タッチ部面積

$$A = 30.648 + (-3.305) = 27.343 \text{ m}^2$$

③ 特別産業廃棄物

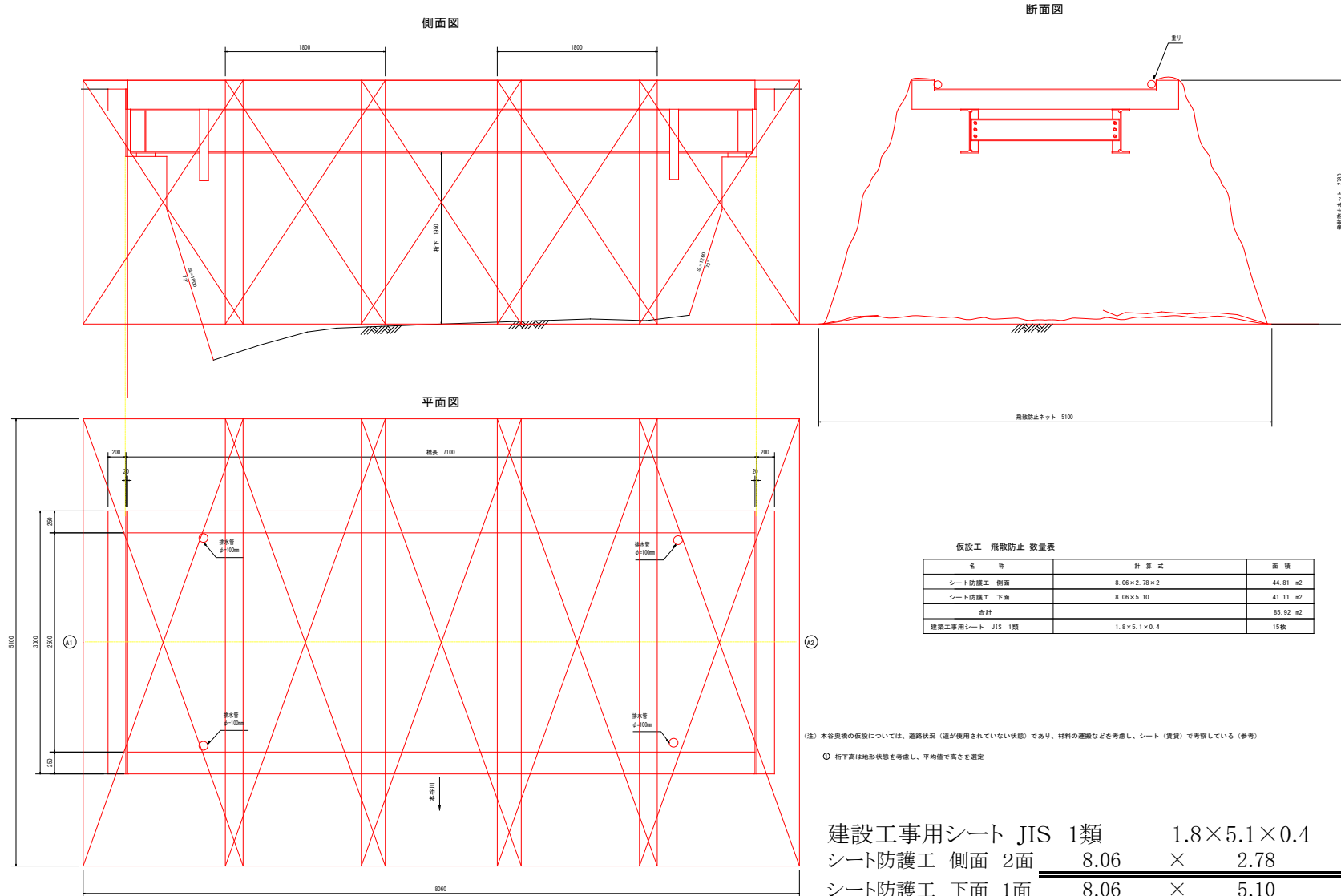
$$w = \frac{1.5 \text{ kg/m}^2}{\text{カタログによる}} \times 27.343 \text{ m}^2 = 41 \text{ kg}$$

## 10.6 水切り工

水切り延長

$$L = \begin{array}{c} \text{上流側(m)} \\ 7.06 \end{array} + \begin{array}{c} \text{下流側(m)} \\ 7.06 \end{array} = 14.12 \text{ m}$$

# 10.7 仮設図 飛散防止



仮設工 飛散防止 数量表

名 称	計 算 式	面 積
シート防護工 側面	$8.06 \times 2.78 \times 2$	44.81 m <sup>2</sup>
シート防護工 下面	$8.06 \times 5.10$	41.11 m <sup>2</sup>
合 計		85.92 m <sup>2</sup>
建設工事用シート JIS 1類	$1.8 \times 5.1 \times 0.4$	15枚

(注) 本谷奥橋の仮設については、道路状況（道が使用されていない状態）であり、材料の運搬などを考慮し、シート（貫貨）で考察している（参考）  
 ◎ 桁下高は地形状態を考慮し、平均値で高さを測定

建設工事用シート JIS 1類	$1.8 \times 5.1 \times 0.4$			15	枚
シート防護工 側面 2面	$8.06$	$\times$	$2.78$	$=$	$44.81$ m <sup>2</sup>
シート防護工 下面 1面	$8.06$	$\times$	$5.10$	$=$	$41.11$ m <sup>2</sup>
合 計				$=$	$85.92$ m <sup>2</sup>

計第 表		工事用道路						計 算 書						
測 点	距 離	掘削			除草									備 考
		C	平 均	立積	W	平 均	立積		平 均	立積		平 均		
ST. 0		0.1			2.00									
ST. 50	50.0	0.1	0.10	5.0	2.00	2.00	100.0							
		0.3			2.00									
ST. 150	100.0	0.3	0.30	30.0	2.00	2.00	200.0							
ST. 250	100.0	0.2	0.25	25.0	2.00	2.00	200.0							
ST. 300	50.0	0.2	0.20	10.0	2.00	2.00	100.0							
合計	300.0			70.0			600.0	処分量	3kg/m <sup>2</sup>	1800.0				